

バッハの声楽曲の中で、最晩年まで改作を続けた口短調ミサ曲、そしてヨハネ受難曲。この二曲には、バッハの芸術性と信仰心のすべてを盛り込もうとする、いい意味でのこだわりを感じさせてくれる。今回は口短調ミサ曲の前身となったカンタータ191番と、ヨハネ受難曲の音世界を再現し、巨人バッハの辿り着いた神髄に迫る。



指揮・福音史家  
鳥海 寮



イエス  
中川 郁太郎



ソプラノ  
次藤 正代



テノール  
佐々木 睦



ピアノ  
森 洋子

1997年より岩手大学、東京学芸大学で研鑽を積む。学芸大学院在学中、ヘンデルの「メサイア」のテノールソロを歌ってデビュー以来、国内外の名指揮者たちと数多く共演。バロックから現代曲に至るまでのオペラ、オラトリオの分野で定評を得ており、特にバッハの受難曲における福音史家の役は各地で絶賛されている。声楽を徳永ふさ子、佐々木正利、高橋修一、横山和彦、故森晶彦の各氏に師事。

東京藝術大学大学院独唱科修了。声楽を故 太田直樹氏他に、指揮を長谷川朝雄氏他に師事。藝大定期ハイドン《天地創造》でデビュー後ドイツ、ライプツィヒに留学し、P・シュライアー氏、H・Ch・ポルスター氏等に師事。帰国後はシュッツ、バッハの諸作品を始め多数の宗教曲や第九のソリスト、指揮者として活躍している。東京室内歌劇場会員、東北学院大学宗教音楽研究所特任准教授。

函館出身。青森明の星短期大学音楽科卒業。同短期大学音楽専攻科修了。東京コンセルヴァトール尚美ディプロマコース修了。2011年～イルテアトリーノ～を立ち上げ、バロックオペラの上演や「おながくとたいせつなもの」シリーズコンサートを開催。2014年函館市文化団体協議会青麒麟受章。現在、次藤音楽教室、歌のグループ教室tuaVoce主宰。函館グロリア合唱団代表。

岩手県盛岡市出身。岩手大学教育学部音楽科卒業。東京学芸大学大学院音楽教育専攻修了。教職の傍ら、歌劇ではモーツァルト、ロッシーニ、ドニゼッティ、ヴェルディ等の技巧的で叙情的な役柄を好演。一方、劇的な作品でも情熱的な歌唱を聴かせ、表現の幅を広げている。バロック期のミサ曲やオラトリオ等、宗教曲での端正で清冽な歌唱にも定評がある。現在東京都公立小学校主幹教諭。日本声楽発声学会会員。

福岡市出身。愛知県立芸術大学音楽学部及び大学院音楽研究科(ピアノ専攻)を修了後、桐朋学園大学研究科にてチェンバロを学ぶ。1991年アメリカ "Southeastern Historical Keyboard Society"主催のチェンバロコンクールで優勝。'94年～'06年 国立音楽大学非常勤講師。チェンバロ、クラヴィコード、また歴史的ピアノを中心に、近年は現代ピアノによる演奏も積極的に行なっている。現在、札幌大谷大学非常勤講師。

### ヨハネ受難曲ソリスト

福田美代、中村紀子、山本益美、船矢朴郎、高橋尚子、濱田陽一

### 函館グロリア合唱団 代表 次藤正代

「ヨハネ受難曲」に取り組むことを始まりとして2021年に立ち上げた函館グロリア合唱団は、バッハの演奏に造詣が深い、鳥海寮氏を常任指揮者に迎え、その指導の下で日々研鑽を重ねています。函館組と東京組の2クラスで構成され、個々に与えられた「声」を磨くことにも重点を置きそれが魅力の一つとなっています。

ソプラノ 井理和子、下川部法子、次藤正代、田中いずみ、中村紀子、劉眞福、木村牧子、向殿裕子、山本益美  
アルト 佐々木陽子、高橋尚子、福田美代、水田真木子、宮森幸子  
テノール 齋藤睦月、山岡景彬  
バス 濱田陽一、船矢朴郎



会場  
北海道大沼国際セミナーハウス  
住所：北海道亀田郡七飯町大沼町127-1  
電話：0138-67-3950

コンサートの開催状況はこちらのホームページからご確認ください。

大沼国際セミナーハウス  
<https://onumaseminar.jp>

道銀文化財団  
特設ページ

